

ふじぎごころぶん

第184号

2016年
12月号

みのむしのふしぎ

すてきな おようがへ

「あーっ、ミノムシ……！」
「えっ？？」

おにわにいた まなちゃんの
すっとんきような こえに、りん
くんも おおあわて。

「ここに ぶらさがっている、
ほら！あ、こっちにも……」

「ほんとだ！しゃしんで みた
ことはあるけど、ぼく、はじめて
みた。」

「わたしも！あそこにも……」
おちやに いらしていたうさ
こせんせいも、ぴんぴん
とんで かけつけ、

「あらまあ、めずらしいですね。
このきだけ たくさん いる
とは……。ミノムシの しょうたい
は、ミノガという 『ガ』の よ
うちゅうです。しゅるいに よ
って ちがった ざいりょうで



『す』を つくって そのなかに
います。こえだで つくるものや、
かれはで つくるものが います。
その『す』が、むかしの ひとが あ
めや ゆきの ひに きていた ミ
ノに にているので、ミノムシと
よばれて いるのですよ。」

「ミノ、かさじぞうが きている」
「そうです、そのミノです。」

「えーっ、ミノムシ！ なつかしい
わあ。」おかあさんも やってきまし
た。「おかあさんが こどものころ、
ミノムシを ミノからだして、けい
とや ちいさく ちぎった おりが
みの なかにいれて、カラフルな
おようふくにして あげたものよ。」
「もともと にわのきの はっぱを
たべたりする がいちゅうなのです
が、さいきは めったに みられ
なくなりました。みつけたら、だい
じに みまもってあげましょうね。」

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！
さがしてみよう！ つくってみよう！

ミノムシが たくさんいる きが ある。
はっぱが おちると みつかることがある。
どんな ふうに ミノムシが
くっついているか みてみよう。
おうちで がよろしに
ミノムシの えをかいて みよう。
ミノは おりがみを ちぎったり
はぎれで つくると かんじが できるよ。

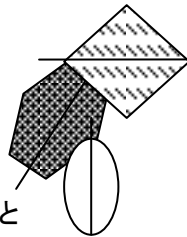


クイズコーナー

① ミノムシは こえだなどを
なにで くっつけて
いるのかな？



1. おみせの のり
2. きの みつ
3. くちから だす いと



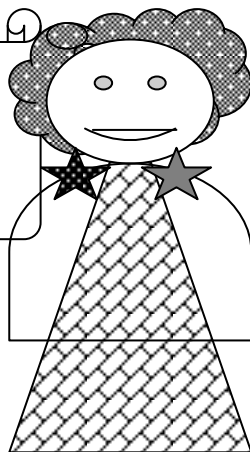
② ミノムシは ミノの
なかから
どうやって はっぱを
たべるのかな？

1. ミノを わって そとにはい
だして。
2. ミノの うえが ひらいてい
て、かおを だして。
3. ミノの なかに はじめから
はっぱを もちこんで。

おしゃれなあなたに
オススメのブランド

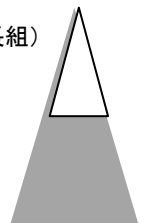
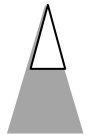
ファッション
ミノ

ざんしんなデザインで
ありながら
たしかな ひんしつ
きつと あなたの
おきにいりが みつかります。



みんなが みつけた ふしぎ

すな やまには
しろい すなを かけると
ふじさん みたいに きれい！
かわいた すなじゃないと
しろく ないよ。 (年長組)



みんなも みつけた
ふしぎ おしえてね

みのむしという生物

紅葉した木々の葉が散り落ち、冬の梢が天に

葉が落ちた木立には思わぬものがその枝先に

見受けられたり、虫の卵だったり、みの虫だった

葉が残り、寒風の中、冬を過ごすもの

も少なくありません。その一つです。

俳句の季節、裸木に下がるたぐさの写真

は、そのこの裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

は、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

は、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

は、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

は、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

は、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真

の、虫達、この裸木に下がるたぐさの写真



とても不思議な生き物で、飛ぶ蛾になるのは

雌は一生箕の中で暮らし、箕の中で産卵して、

卵がふ化する頃に仕事は終わったとばかり死

んで箕の下から地上に落ちてしまします。

卵から孵化した幼虫も少し大きくなったら、

生まれた箕の下から出て、糸を垂らし風に乘

って程よい枝にたどり着き、そこで箕を作っ

て暮らし始めます。箕は、かじり取った葉っぱや

小枝を糸でくっつけて作ります。

葉っぱを食べ、大きくなり、脱皮ごとに箕を

大きくしていつて、やがて冬を迎えます。

すっかりした箕の中で冬を越してから、春に

蛹になり、初夏には羽化します。

といっても、先ほど書きましたように、蛾の

形で飛ぶのもつばら雄のみです。天敵がいまし

た！

このハエが中国から渡来し

て広がったのが、みの虫の激減の原因でした。

寒さに弱いハエなので、西日本の被害が多い

ようにです。



子供が見つけた不思議・ミニ解説

子供たちの大好きな砂遊び。しっとり湿った黒い砂は山を築

いたり、トンネルと創ったりするには最適です。そんな中、

経験豊富な子供たちはよく晴れて十分乾いた日の白っぽい

サラサラの砂を入れ物に入れて取っておきます。そして、見

事に出来上がった山にふりかけて雪に見立て白さを十分に

生かして遊びます。湿った砂が黒く、乾いた砂が白っぽく見

えるのは水の存在が原因です。土も、新聞紙も、絹のシャツ

なども、水にぬれた途端、色合いがどっしり重い黒っぽさを

帯びてきます。水がない時にそれぞれの面は複雑な凸凹で、

それぞれの物質特有の形をしています。色はあるとはいえあ

る程度白っぽいのは様々な色の光を反射しているからです。

そこに水が来ると、水自身も光の一部を吸収しますし、反射

の方向なども変わって、乾いた時ほどたくさんの光が反射さ

れて目に入らず、目が感じる光が減って黒っぽく見えます。

Merry Christmas! & A Happy New Year!

今年の子報によると雪の多い冬になるかもしれせん。クリスマスや新年は白で彩られるのでしょうか。雪や氷、霜の結晶の妙はこの季節でしか見る事ができません。よく晴れた日の凍てついた朝は、地面や木々の葉、時には歩道脇のガードレールや駐車場のフロントガラスに霜がキラキラ！手を触れず、なるべく息をかけず見てください。虫眼鏡でも。ふしぎ新聞は皆様からのふしぎを元にできております。無料でダウンロード可。更新が遅れ気味はお許しを！紙面でお読みになりたい場合は、年間(11回)の1100円を定額小為替か小額切手(3部まで同封可)。URL: science-with-mama.com

発行: ママとサイエンス 代表者: 田中幸・結城千代子 メインイラスト: たまたろ

問い合わせ先: 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町6-16-23 結城

連載 あしおとをきく 多賀二葉幼稚園事例集

今から三十年近く前に出された保育事例集です。今日の子ども達にも共通する姿には、愛らしい場面も、はっとさせられることもあります。

第一集より

みんなでつくったこいのぼり

四月の終わり、好きな友達同士でグループを作り、大きな紙で鯉のぼりを作った年長組。五月に入り、部屋にぶら下がっている五匹の鯉のぼりを年少が来て見ている。先生「この鯉のぼりほしい?じゃあみんなに聞いてみるからね。」分級の時間に「バンビちゃん(年少組)がこれ欲しいって言っていましたよ。」

A・K・ミ子「じゃあ持つて行ってあげる。」三人は鯉のぼりを持つて出て行った。年少はおやつを食べている時間なので大丈夫かなとちよつと心配になった。年長児にはおやつはない。

三人「バンビちゃんには鯉のぼりないでしょう。こればら組のみんなでつくったの。」バンビ組はちよつどおやつを食べていた。年少の先生「まあ、ありがとう。だまつて

人数分あるけれど異なる何かを選ぶ時、子ども達は「わたしが」「ぼくが」と、すぐに先を争って何かをしようとします。そしてぶつかりあうと、ひとしきり言い争い、じゃんけんをしたりしてお互いに落とし所

お先にいっしょ

を探ります。そんな子供なりの解決も大切なのですが、先日、先を争いそうだなあ、という場面を前に、新しい言葉を教えまして、それを言う事で、

いただいていたのかしら。」バンビのみんな「ありがとう。せんせい、お姉さんたちにおやつあげようよ。」

三人「でも、私たちだけがおやつもらってはいけないし…。みんなで作った鯉のぼりだから、けっこうです。」三人はしばらくするとおやつをもらわず部屋に戻ってきた。

バンビのみんな「あつちの上にいっぱいあるでしょう。先生あれみんなにあげればいいよ。あげてよ。」

バンビの先生がおやつを持つてばら組に来てくれた。ばら組のみんなは大喜び。丸く納めて座り、みんなで一つつつ食べ、残ったものはさらに半分にしてみんなでいただいた。

あしたはいつくるの

S子「今日は先生の隣にいるのよ」

T子・N子「あたしよ、あたしだって…」

S子「Sが早く来たもん。T、明日にすれば。」

T子「今日こそ私よ、私が先生の隣!」

S子「明日って言ったでしょう。だから今日は私。昨日じゃんけんですう決めたでしょ。」

T子「へんよ、『明日』はいつくるの?」(続)

先走る心を自分で抑える事ができる魔法の言葉「おさきにどうぞ」です。みんなで声を合わせていって見ました。どんなときに使うと、素敵かも伝え、いよいよ先を争いそうな場面。みんなが「私」の声を一呼吸し

て抑え、この言葉に挑戦。争いそうな二人に、他の子が「おさきにどうぞ」など、大人めいて忠告したり、一度で定着するものではありませんが、元気なわんぱく達は何とも奥ゆかしい子どもに見えました

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方



ミノムシが登場する絵本はずばり「みのむしーちゃみののがのくらしー(福音館)」ここに書かせていただいたようなミノムシの生態を丁寧に描いてあります。「ゆきやまたんけん」(同)冬眠しないで雪山探検をするカエルの夫婦、防寒コートは何で作るのでしょうか。さて、以外にもミノムシは案外絵本の中に見つかりません。ミノムシがいそうでいなかっただ本は「くさやきのうた」(同)四季の草木と生き物の姿を柔らかい色で描いています。いかにもミノムシがぶら下がりがうな、冬の裸木がある絵本もご紹介。「てぶくろ」(同)ウクライナの有名な民話。落ちていた片方の手袋、動物たちが次々に入って家にしていきます。「ぼとんぼとんはなんのおと」(同)冬眠

中のクマの親子の暖かい会話と、冬の森の風景が素敵。「ちいさなふゆのほん」(同)雪の日はどんな楽しいことがあるか思い出させてくれる絵本。そして、陽射しと雪どけの良さも。表紙裏の冬木立がかわい。「もちもちもき」(岩崎書店)おじいさんと暮らす臆病ものの豆太、病気のじさまを助けるために夜道を必死に走ります。「まあばあさんのゆきのひピクニック」(同)ののちゃんはずっかくの雪の日なのにご機嫌斜め。まあばあちゃんがゆきのひピクニックに誘ってくれました。「ふゆねこさん」(偕成社)茂みの中の野良猫が暖かい家に迎えられまでの物語。「はるまでまてごらん」(ほるふ)「わすれられないおくりもの」のスーザン・パーレイの優しい絵が、うさぎのスマジに兄弟ができるまでを描いています。「白い森のなかで」(同)白黒にわずかな彩色が実に美しい不思議な冬の絵本。